

カシミヤの季節がやってきましたね。  
 この冬も、お洒落のご馳走で暖かくお過ごしください。  
 UTOのご馳走は上質と丁寧作りのカシミヤです。

お決まりのフリースですが、一年の経つのは本当に早いもので街にはクリスマスソングが流れるようになりました。

本格的な冬に向かって空はぐっと高くなり、空気も澄み渡ります。  
 冷え込む季節になりますが、それはまたカシミヤの季節の到来です。  
 鮮やかな色合いとやわらかな風合いで身も心も暖かく過ごしたいですね。

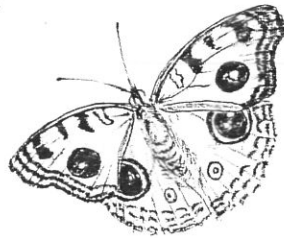
### 【雑誌・ミセスに紹介されて】

雑誌・ミセスの十一月号のカシミヤ特集でUTOが紹介されました。店舗兼ショールームも写真付きで紹介され、同列の掲載の相方が、英国のバラントイン、イタリヤのクルチアーニとアニオナだったので、無名の『UTO』とはいったいどんなブランドなんだと、俄然注目されたいようです。



UTOの商品に関しては、原料や紡績は、カシミヤ業界では世界的に評価されている日本の東洋紡糸の糸を使っているし、物作りでは、一枚一枚作る丁寧さでももちろんヨーロッパ勢に引けを取るものではないと自信はあるんですが、これだけは他人さまが評価を下すもので我々がいくら騒いでも何ともならなかったんですが、このミセスの掲載で、やっと同じ土俵に乗せてもらった感じです。

その後、プレシヤスでの掲載や、リアル・クロースのテレビ放映での衣装協力などで多くの方から連絡を頂き、マスコミの影響力の凄さを改めて実感しています。



タテハモドキ

### UTO カシミヤ100% 衿付きハーフジャケット

No. 11-1050 ¥68,000.+TAX

温暖化の影響か、このごろは分厚いコートは敬遠されざらぬ。それではというのでしょうか、冷え込んできて、軽くて暖かいこのニットセミアコートが好評です。



### カシミヤ100%・アームウォーマーと手袋

(手袋) No. 71-1083 ¥4,800.+TAX  
 (ネックウォーマー) No. 71-118 ¥6,800.+TAX

今年の隠れたヒットはアームウォーマーと手袋。セーターとお揃いの色で楽しめる小物は、プレゼントにも最適。クリスマスにも活躍しそう。



### メンズ・カシミヤ100% パーカー

No. 21-1106 ¥67,000.+TAX

今年ブレイクのパーカー。高級素材のカシミヤでカジュアルにスポーティにパーカーを着こなすのは最高のお洒落ですね。ウルトラ・ファイン・メリノウール(¥39,000)もあります。



### 【南青山界限】 UTOはこんな街から発信しています

新装の根津美術館  
 器が変わって来館になった根津美術館

会社から歩いて五分もかからないところにある根津美術館。三年半も工事していて、先月の十月七日にやっと新装オープンしたので、お昼休みにでも行こう行こうと思いつきながら機会がありませんでした。十一月の最後の土曜日に行ってきました。

新装なった根津美術館は、黒い屋根瓦に南部鉄の鑄物のようなシックな壁の建物に変わりました。特に入口のロビーからガラス越しに見える庭園の木々がとってもインパクトがあり、博物館のようだった以前よりも良くなったと感じました。訪れた日が晴天で、緑の木々の間から覗く紅葉したモミジが映えて、抜群のタイミングでした。

この日は『新創特別展第二部』ということで、根津得意の茶道具をやっていました。根津と言えはお茶です。この庭園の中にある四か所の茶室で行われるお茶会は、お茶をやる人ならぜひ一度は参加したいという程有名なそうです。もちろん僕

は行ったことはありません。

根津美術館と言えば、僕はなんといっても尾形光琳の燕子花図(かきつばたず)ですが、貸し出しの出稼ぎに出ているのか、今回も見られませんでした。李安忠筆・国宝の鶴図(うずらず)と重要文化財になっている牧溪の竹雀図(ちくじやくず)を見ることができました。とても緻密で繊細な絵ですが、何分古い掛け軸で思ったより小さく、おまけに暗く離れたガラス越しなので、無教養な僕にとっては、『フム、これが国宝かあ』って感じでした(スイマセン)。

茶陶器は興味があるのでじっくり見ました。信楽の花器や伊賀の水差しが存在感あつてとても良かったです。茶碗では重要文化財という鼠志野茶碗(ねずみしのちやわん)に人垣が出来ていましたが、僕は雨漏茶碗(あまもりちやわん)が印象的でした。茶会の席を再現した畳の間が設えてあり、ここに展示してあるような超一流の道具が配置されてありました。床の間に展示してある信楽の壺にさりげなく紅葉の一枝が投げ込んだように飾られた様を思い浮かべると、『お茶の世界も良いなあ』と柄にもなく和んだ気分になりました。

庭園の中にある喫茶店も新しく建て替えられ、ガラス張りになってお洒落になりました。二〇〇五年の春号でも書きましたが、何といてもこの庭園はお勧めです。芸術作品を鑑賞して火照った頭を冷やすには自然の緑に勝るものはないと思います。

東洋美術の殿堂の根津美術館なのに、僕の本音は、茶道具より庭をゆっくり散歩したいと思う罰当たりな無教養人なので、お昼休みにちよつとというには時間が足りませんでした。

コンクリートの建物ばかりのこの辺でこの根津美術館の緑はとっても貴重です。

根津美術館  
 NEZU MUSEUM



\* ファッション販売員のための ニットの話 \* (三十一)

### リンキングの話 II

リンキングマシンを作ってほしい

ニットの生産はリンキング次第

いまやニットの生産は、リンキングが何枚上がるかにかかっています

編み機とソフトの進歩で編みだての技術はどんどん進んでいます。量を得意とするメーカーでは編み機を何台も投入して編みをやっています。でも編み機は自動の機械で出来てもこのリンキングの工程を経ないと一枚のセーターは完成しません

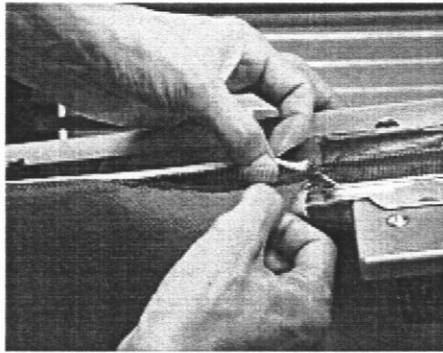
リンキングに熟練するには経験と根気が必要で、機械のように簡単に補充するといわれないままに、中国をはじめ東南アジアの国々などでは、若くて目の良い女の子達が必死でリンキングをしているのに比べて、日本では熟練者であっても、ほとんどが高齢者で、後継者もいないというのが現状です。

長年かかって培われてきた技術が、廃業や生産が海外に移るいわゆる空洞化によって技術の伝承が途絶えるのはとても残念です。日本の貴重な財産が失われていると思います。

リンキングの技術は風前の灯なので、誰か自動リンキングマシンのような機会を作ってくれないかと切に願っているんですが、なかなか難しいようです。

『やすみ』は八角さんが発明したから

リンキングマシンには『ダイヤルリンキング』と『やすみ』と呼ばれるリンキングマシンがあります。当社の工場でも両方を使っています。



編みが終わってこのリンキングの工程を経て、一枚のニットができていきます

ニットの仕事を始めたころ、工場さんとのやり取りの中で、「いま編みが終わって、やすみやつていから」というようなことをよく聞きました。やすみやつて何だろうと思っていたんですが、やすみとは手動のリンキングのことで、リンキングすることの代名詞だったんです。それにしても『やすみ』とは変な名前だなあと思っていました。

リンキングは難しいので、休みやるからやすみという人もいましたが、日本中の殆どの『やすみ』を扱っているという大坂の圓井織機機械に問い合わせたら、大正の初めに、大阪の淀川に住む八角さんという人が発明したものだということでした。

電力の乏しい時代に、軽くて場所を取らないこの手動の機は小規模の家庭工業にもってこいの機械で、日本中に普及し今だに活躍しています。ニット史にのこる日本人による画期的な発明だと思えます。

ちなみに電話に出て頂いてお話を伺った圓井織機機械の圓井社長は、70過ぎの矍鑠たるおっちゃん、台湾、韓国、中国まで広まっています。まだ海外の出張にも行っているんです。と張り切っておられました。大先輩が頑張っておられるのって、嬉しいですね。

今はリンキングがいらぬというホールガーメントという凄い編み機が出ています。縫い目のないセーターで脚光を浴びましたが、やはり製作上の制約が多く、一部の企画にはとても有効ですが、大抵のニットづくりでは、『全くリンキングなし』というまでには至っていないというのが現状です。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

### 沈まぬ太陽の小倉さんとの出会い



沈まぬ太陽の映画が公開されましたね。まだ見ていませんが本は読みました。著者の山崎豊子の小説は大好きでほとんど読んでいます。

三年ぐらいまえ、友人に借りた文庫本の、『航空会社のエリート』の主人公が、労組に協力したために経営陣と対立し、アフリカまで左遷され、理不尽な社内流刑を余儀なくされている。辺りを読み進むうちに「ふつと、主人公の恩地はもしかしたらあの小倉さんでは？」と思ったので急いで本の最後を開いたら、小倉貴太郎さんの名前があり、びっくりしました。小倉さんにはケニヤのナイロビで大変お世話になったんです。

当時、二十八歳。たった一人、仕事で西アフリカ・ナイジェリアのラゴスに滞在中にクーデターが勃発。国境が閉鎖され空港は欧米への脱出の人で大混雑でした。僕は南のコンゴのキンシャサ経由の便を捕まえケニヤのナイロビに脱出しました。やつの思いで降り立ったナイロビ空港で「宇土さんですね？」と呼び止められびっくりしました。「日本航空の小倉です。宇土さんお待ちましたね。」宇土さんはラゴスの日本大使館に立ち寄られましたね。その翌日にクーデターが起きて、宇土さんと連絡が取れなかった。外務省からアフリカ、ヨーロッパの関係先に宇土さんを探そうと連絡が入っているんですよ。そしたらその日に宇土さんの名前があったので僕が迎えに来たんです。小倉さんの笑顔に会ってクーデター以来の緊張が一気に解けました。

その時僕が利用していたのはバンナムで、日本航空のお客でもないのに小倉さんの親切が身に沁みました。お訪ねしたナイロビの小倉さんの事務所は、JALの飛んで来ない異境の地で、英国航空に間借りしながら机一つの事務所でした。

その時は事情は全く知りませんでした。ナイロビ以来、小倉さんのお付き合いが始まり、日本に帰られた後、一緒に仕事をさせて頂きました。ある日、小倉さんの先輩から、「貴太郎は超エリートだったのに、労組に加盟して、中東、アフリカと飛ばされちゃったんだ」という話を聞いたことを思い出して、主人公は小倉さんがモデルだと確信しました。

その後、僕が旅行屋からニット屋に転身した為に連絡が途絶えてしまいましたが、小説なのでここまでが事実かは不確かですが、僕の知っている小倉さんと非常に重なる点があります。残念ながら何年前にお亡くなりになりましたが、僕の知っている小倉さんは、ちょっと髪の毛が薄く、腰の低い、なにより笑顔の素晴らしい人でした。

世界のホテルを旅する (三十一)

元、旅行屋のお勤め 倉敷・岡山

### 倉敷IVY (アイビー) スクエア

岡山辺りでの仕事のときでも、泊まるのは、倉敷まで来てこの倉敷IVYスクエアに泊まって夕方や朝早く倉敷川の周りの美観地区を散歩するのが何よりの楽しみです。

掘割のある倉敷美観地区の中心は1930年に開館した日本初の西洋美術館、大原美術館。收藏の名画を収集したのが地元出身の児島虎次郎で、スポンサーが倉敷紡績で財をなした大原孫三郎でした。その倉敷紡績のクラシックなレンガ造りの工場の建物を元に造られたのがこのホテル、倉敷IVYスクエアです。ホテルIVYスクエアとかIVYスクエアホテルではないらしい。ホテルとはうたつてないが、ちゃんとしたホテルです。

IVYとはアイビー、蕨の意味です。創業当時は工場の建物に当たる西陽の暑さを遮る為に植えられたそうです。夏場は青々とした葉が強い日射しを遮り、秋には葉が艶やかな彩を添えてくれ、冬場は葉を落として熱を吸収するんです。これこそ地球環境に最も優しい天然の冷暖房でしょう。煉瓦造りの壁に蕨が這う古い建物はそれだけでも知的な美があると思います。



KURASHIKI IVY SQUARE と書かれたゲートをくぐってホテルの敷地に入ると、中世ヨーロッパの僧院の回廊を思わせるような四角い広場の周りを蕨の絡まる煉瓦造りの建物が囲んでいます。設備だけなら新しいビジネスホテルの方がより機能的なんでしょうが、建物、デザイン、歴史。それらを今でも使えるように大事にメンテナンスしている心が嬉しいですね。古い工場をホテルにするという発想は素晴らしいアイデアだと思います。部屋は決して豪華ではありませんがシンプルで設備で、ビジネスホテルよりやや広く、何より天井がたかいのでリラックスできます。

ここへ来たたら大原美術館はもちろんですが、四〇年も前に初めて来たときに入った喫茶店のエルグレゴ足が向きます。高校を出たばかりで、初めて見た名画に興奮さめやらなまま、まだコーヒの味にも馴染みがなかった頃、エルグレゴで飲んだコーヒの苦さは未だに舌に残っています。懐かしいけど、少々くたびれたかな。

夕方、ホテルヘチェックインして荷物を置いたら早速外へ。一般の観光客が引け、そろそろお店も店じまいして陽が落ちる前の倉敷川の静寂の周りの雰囲気が良いんです。早朝とこの時間の為にここに泊まると言っても過言ではありません。薄暮の中、周辺で仕事をしている人たちが自転車で「お疲れ様」と声を掛け合っている様子は、芝居がはねたあのような物取しさと仕事を終えた安堵と充実感とが街を包んでいよう、大好きな時間です。